



万倉小だより



【教育目標】「地域を愛し、人を大切にする子どもの育成」

【めざす学校像】「ともに伸びる」

【チャレンジ目標】「あいさついちばん やさしさいちばん やりませいちばん」

ホームページQRコード

「2022年 新年明けましておめでとうございます」



校長 堀 明美

2022年（令和4年）が幕を開け、3学期が始まりました。1月8日の「どんど焼き」には多くの子ども達が参加していました。地域行事に参加することは、地域を盛り上げる地域貢献になると思います。おかげさまで始業式よりも一足早く子ども達の元気な姿を見ることができました。

さて、今年は寅年。寅は、勇猛果敢なトラのことですが、黄色地に黒色の毛皮の模様からトラに産まれる前は夜空に輝く星だったのではと考えられていたそうです。「決断力」や「才知」、「才覚」の象徴で、「始まり」の意味もあり、寅は縁起の良い置物としても重宝されています。ことわざにも、『虎は千里行って千里帰る』とあるように、1日に千里を往復できるという意味から勢いが盛んな様を表したり、『虎穴に入らずんば虎子を得ず』のように、虎の住む洞穴に入らなければ虎の子をつかまえることができないことから、リスクを冒さなければ成功を得られないことを表したりしたものがあります。寅の素晴らしい特徴にあやかる元気な一年にしたいものです。

3学期は、51日（6年生は47日）と一番短い学期です。それぞれの学年のまとめをすると同時に、次へのステップに向けて準備を進める時期でもあります。新学期の目標に向かって果敢にトライしてほしいです。

昨年末に嬉しいニュースが届きました。本校出身のピアニスト小林愛実さんが、山口県から『山口県文化特別褒賞』を、宇部市からは初の『市文化芸術栄光賞』を授与されました。小林愛実さんにとって、「小学1年の3学期から5年の3学期までの子ども時代を過ごした万倉地区は帰省するたびにリフレッシュできる大切な場所」だそうです。6月26日には渡辺翁記念会館で凱旋公演が予定されていると聞いています。世界で活躍される偉大な先輩に続けたいものです。

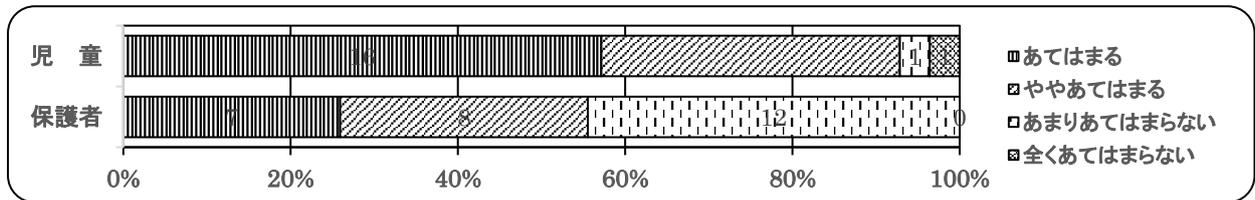
3学期は、国際交流も始まります。オーストラリアで日本語を学んでいる生徒達から届いた年賀状に、3・4年生が返事を書くことになりました。昨年度から続いている交流です。また、台湾在住で宇部市出身の竹中氏が来校され、台湾のことや台湾のICTについて学びます。さらに、夢教室でペイトリオッツの選手と交流します。このように、多様な人から多様な価値を学び、多角的で多様な考えを身につけてほしいという目的から、本物とふれる体験を仕組みます。子ども達の視野が、故郷万倉から楠地区、宇部市、山口県、日本、世界へと広がっていくことを願っています。

本年もご支援ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

「ともに伸びる学校」づくりのためのアンケート結果・考察

【確かな学力の育成について】

■ 家庭学習『学年×10分+10分』の習慣が身に付いているか。



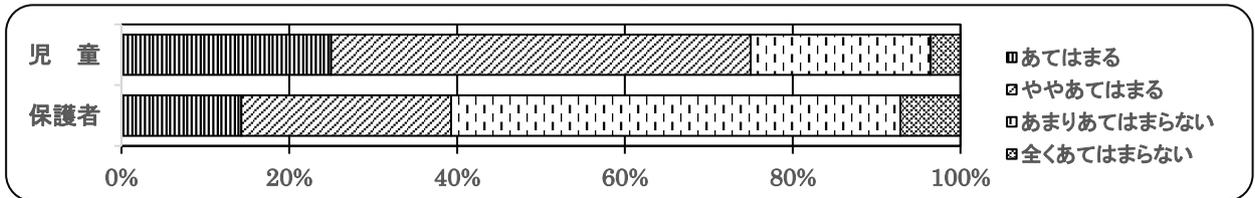
児童の肯定的評価はR元年の59%から年々上昇してきており、1学期と比べても7ポイント上昇し93%となっている。しかし、保護者の評価は3ポイント低下しており56%となっている。

＝ 今後の取組 ＝

- ◇ 家庭学習の始めと終わりの時間を記録することや振り返りをする事、自主学習ノート展を企画し友達のよい点を学ぶ機会を設けることで、家庭学習の時間と質の両面から充実を図っていく。また、単元末復習の時間の設定や異学年交流学习会を実施し、学力への意識を高めていく。

【豊かな心の育成について】

■ 身の回りの片付けや整理整頓をする習慣が身に付いているか。



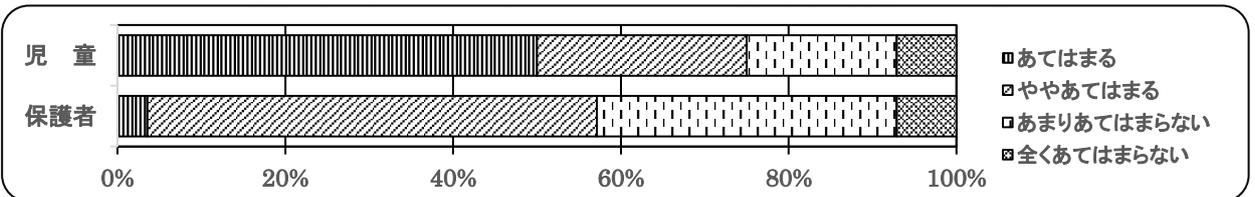
5年生が中心となってスクールミーティングで話し合い、整理整頓週間を設けて『整理整頓チャレンジカード』に挑戦したが評価に変化はなかった。保護者の評価はR元年から徐々に上昇してきてはいるものの39%と依然として低い。

＝ 今後の取組 ＝

- ◇ 児童が主体的に取り組み始めたことは素晴らしいことなので、3学期も積極的な取組を励まし『整理整頓チャレンジカード』を継続していく。日頃から身の回りの整理整頓を心がける習慣を身に付けられるよう支援していく。

【健やかな心と体の育成について】

■ 万倉っ子メディアのやくそく「〇〇家のルール」を守るよう努力しているか。



給食保健委員会が中心となって、メディアアンケートを実施したり、アウトメディアルールを自分たちで作ったりして取り組んだが、児童が6ポイント、保護者が5ポイント低下している。

＝ 今後の取組 ＝

- ◇ 整理整頓と同様に児童が主体的に考えるきっかけができてきているので、万倉っ子メディアのやくそくを継続していくとともに、児童が作ったアウトメディアルールを浸透させていくことでメディアをコントロールする力を高めていく。

【保護者・地域との連携について】

■ 体験的な学習や地域の特色を生かした教育活動を積極的に行っている。

- 児童、保護者ともに肯定的評価が100%になった。

＝ 今後の取組 ＝

- ◇ さらに発展させるために、2月の拡大学校運営協議会で、地域との学習についての児童作成の振り返りプレゼンを行い、児童の意見をもとに来年度の計画を作成する。